



ウイークリーシグナル

2025年11月28日

<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位:億円)

日付	資金需給予想			主要な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
12/1 (月)	▲ 500	▲ 33,400	▲ 33,900	国債発行償還（2年） 国庫短期証券発行償還（3M）	成長基盤 社債等買入 国債補完供給	▲2,500 ▲100 1300	日：植田日銀総裁、名古屋市での金融経済懇談会で講演 米：ISM製造業景況指数（11月） 欧：ユーロ圏製造業PMI（11月）
12/2 (火)	トン	▲ 40,000	▲ 40,000				欧：ユーロ圏失業率（10月） ：ユーロ圏CPI（11月）
12/3 (水)	トン	▲ 80,000	▲ 80,000	国債発行（10年） 法人税・消費税・保険税掲げ			米：ADP雇用統計（11月） ：ISM非製造業総合景況指数（11月） 欧：ユーロ圏サービス業・総合PMI（11月） ：ユーロ圏PPI（10月）
12/4 (木)	トン	▲ 2,500	▲ 2,500				
12/5 (金)	トン	▲ 7,000	▲ 7,000	国債発行（30年）			日：コール市場残高（11月） 米：個人消費支出（PCE）価格指数（9月） 欧：ユーロ圏GDP（3Q）

<インバーアンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比4,000億円減少し、489兆5,000億円から始まった。その後、国債発行等の要因により減少し、28日は487兆500億円（速報）で越過した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.478%から始まり、その後も横ばい圏で推移した。

ターム物は1W～3W物0.471%～0.650%のレンジ、1M～3M物0.545%～0.700%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では12月1日に植田日銀総裁が名古屋市での金融経済懇談会で講演、海外では3日にユーロ圏サービス業・総合PMIの公表、5日に米個人消費支出（PCE）価格指数（9月）、ユーロ圏GDP（3Q）の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.450～0.478
1M	0.57～0.64
2M	0.58～0.69
3M	0.64～0.75
6M	0.75～0.90

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.40%
CP 3M	0.60～0.75

<レポ>

足許GCは週を通して+0.495%～+0.505%の狭いレンジで取引された。月末を跨ぐ取引となる27日も水準に変化は見られず、短国債の発行があった28日には+0.50%を上回る取引が中心となった。

SC取引は、10年379回債は27日の取引で前場0.25%下回る水準で取引が見られた。他2年470～477回債、5年155～181回債、10年356～371、378～380回債、20年110～130回債などに引合いが見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約3兆825億円で、週間償還額の2兆2,425億円を大幅に上回った。発行残高は、先週末時点の24兆9,398億円から、11月27日時点での25兆3,259億円へと増加した。発行市場では、月末の大量発行があり、食料品・機械・不動産業を中心とする幅広い業種で大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で0.50%台前半、3か月物で0.70%台を中心に、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約6,700億円となっている。発行市場は、事業法人の賞与支払いに向けたCPの利用が想定され、相応の発行が見込まれる。発行レートは、12月の金融政策決定会合を超える案件では、日銀の政策修正への警戒感から引き続きレート水準を探る展開が見込まれるであろう。

<TDB>

28日の3M（1347回債）の入札は、最高落札利回り0.5576%（前回債0.4879%）、平均落札利回り0.5187%（前回債0.4766%）となった。

来週の入札は12月5日に3Mが予定されている。